

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292400312		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームきくまの家		
所在地	千葉県市原市菊間2394-2		
自己評価作成日	令和3年3月9日	評価結果市町村受理日	令和3年6月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和3年3月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>新型コロナウイルス感染予防の観点から外部との関わりがとりにくい状況にあるなかで、人通りの少ない周囲の散歩を行っています。また家族との面会や職員会議にオンラインも取り入れています。事業所内においては、入居者一人一人が自分の力で生活しやすいような生活環境に随時調整したり、家事場面のできることの継続ができるよう、強制にならないように職員と一緒に行動したりしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設1年目であり、コロナ禍でのオープンであった。家族との関わりや地域との交流が制限されたなか、ホーム長・管理者や職員が工夫をしながら支援にあたっている。とくに利用者の自立支援に取り組んでおり、掃除や調理など家事に参加してもらったり、一人での散歩やプランターの野菜の世話などは見守っている。各種の行事やレクリエーションと一緒に楽しんでいる。また、リビングにオゾンによる空気清浄機を設置したり、トイレの木製の手すりを職員が取り付けするなど環境整備に努めている。利用者の表情は穏やかで、安心して過ごしていることがうかがえた。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をつくってはいるが全職員が共有して実践につなげているとはいえない	会社の基本理念とともにホーム独自の理念を掲げている。理念に基づいた支援として、職員は利用者一人ひとりの生活の中で動きを把握し、その動きを活かせるような支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響もあり積極的には行えていないが、散歩中の挨拶や地域の理髪店の利用を行っている	新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の祭りが中止となるなど、住民との交流ができていない。近隣の散歩では地域の人と挨拶を交わしたり、地域の理髪店を利用するなど、新たな関係性を大切にしている。	今後は自治会に加入するなど、さらなる地域との連携も期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナウイルスの影響もあり地域の人々に向けて活かしてはいるが、入居見学や相談は予約なく対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市原市からの指示により、書面にて議事次第を送付し、いただいた意見を議事録にして報告し、参考にしていく	市の指導により運営推進会議は現在書面でおこなっている。会議のメンバーは市の担当課や地域包括支援センター、市社会福祉協議会、町会長、調剤薬局、提携医等であり、多彩である。書面会議でも多様な意見が出ており、ホームの運営に活かしている。	運営推進会議には、家族等に参加を促すことも期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターより依頼の緊急入居の受け入れを行った	行政の担当課には、何かあれば訪問している。地域包括支援センターとも連携しており、利用者の入所につながった事例もある。コロナ禍が落ち着いた段階で、介護相談員の受け入れも検討している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組みは行っているが、身体拘束における正しい知識の共有は資料参照に止まっている	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、指針を整備するとともに委員会を設置し、3か月に1回話し合っている。また、本所で虐待防止・身体拘束廃止研修を受講しているが、ホームでの伝達研修には至っていない。玄関は施錠せず出入りは自由であり、職員に断りひとりで散歩に出かける利用者もいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回以上行われている社内研修に代表者が参加し、ユニット会議で報告している		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は権利擁護に関する研修講師を行うなどしているが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んで活用まではできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用者やご家族と事業所のホーム長が対面で説明を行い、質問に対しての説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話、メール、LINEも活用しながら自由に意見がもらえるようにしており、いただいた意見はホーム運営に活かすよう心掛けている	コロナ禍であり、家族の面会は制限しているが、家族から電話があった際には要望を聞くようにしている。また、SNSでホームとやりとりをする家族もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回の職員面談、ユニット会議での意見の吸い上げを行い、反映させている	毎月のユニット会議や年2回の職員面談で、管理者やホーム長が意見を聞く機会がある。現在はオンラインでの参加も可能としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回の職員面談や、LINEやzoomを活用して意見を聞いている。資格取得や契約時間変更における昇進推薦も行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内のOJTとしては日常の支援毎根拠を伝えながらの説明を目指し、OFF-JTとして社内研修や外部研修への参加を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響もあり、外部との接触は控えている。代表者としては、zoomを活用しての同業者との意見交換や研修参加者との意見交換を行っている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談や入居前面談の場で本人が困っていることを言葉や行動から知る事ができるように積極的に本人の話に傾聴するよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や入居前面談の場で家族から話を聞き、不安に感じることや要望に対し聞くだけで終わりにはせず、ホームで出来ることを伝えるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の話の中から必要としている支援を専門職として見極め、デイケアや訪問サービスなどの提案も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理や掃除などの生活場面の中で、その方のできることをいみつけ職員と一緒に暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院、行政手続き、季節の衣類入れ替えなどご家族に依頼を行いつつ、ご家族が対応出来ない時には職員による代行も行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスの影響もあり、直接会うことはできないが、電話やLINEビデオ通話による親族との関わりも行えるよう努めている	携帯電話を持っている利用者も多く、家族や友人と電話で話している。現在、家族の面会や外出は難しい状況である。また、これまでの関係性に加え、新たな関係性も構築できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席は入居者同士の関係をみながら決めているが、状況に応じ随時変えることも行っている。また職員がつなぎになれるよう一緒に関わりをもっている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点ではサービス利用を終了した方はいない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で本人の希望や意向を聞き、介護記録に、今できることを検討し支援にも取り入れている	利用者一人ひとりの思いは、日常の会話や入浴など個別のケアで聞くことが多い。意思疎通が困難な利用者には生活歴などから、話題を見つけ話を聞いている。聞き取った情報は介護記録に入力し、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居した後においても、本人やご家族から話を聞き、職員間で情報共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の中での過ごし方や有する能力は介護記録として残し、職員全員が情報把握できるよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議でカンファレンスを行い、訪問診療や看護師からの意見も取り入れ、本人がより良く暮らすことができる介護計画を目指している	利用者の様子を観察したり、職員や訪問診療医、看護師などの意見を参考にカンファレンスをおこない、介護計画を作成している。ユニット会議で6か月ごとに職員から計画に関する意見を聞き取り、評価して見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践における気づきや工夫を介護記録として個別に残し、情報共有して次の実践に活かすようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外への散歩、訪問マッサージの活用など、グループホームの介護だけに捉われないようにしている		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響もあり積極的には行えていないが、近隣の理髪店など店舗の利用を行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携しているクリニックとは連絡を密にとり、提携以外の病院にも情報提供してもらいながら専門的な受診も行い、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の主治医は協力医療機関の医師になっており、月2回の訪問診療を受けており、24時間のオンコール体制がある。ホームには看護師も在籍しており、医療面でのケアを担っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2日ホームの看護師に情報を伝え、助言をもらったり医療処置を行ってもらっているとともに、24時間電話連絡がとれるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に至ったケースはないが、提携のクリニックとは関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のケースはまだないが重度化の指針や重度化や終末期が考えられる場合に話し合いの場を設けることを入居契約の際説明している	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を整備しており、契約時に利用者・家族の意向を聞いている。入居後も、1年に1回家族に看取りの意向を確認をしている。職員には採用時に看取りに関するホームの方針を伝え、全体会議で看取りに関する研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回以上行われている社内研修に代表者が参加し、ユニット会議で報告しているが全職員に実践力が身につけているとはいえない		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練によって避難できる方法の訓練を行っているが、地域との協力体制はまだ築けていない。	今年度は日中の火災を想定した訓練を1回実施した。介護度が低い利用者が多く、避難後は介護度の高い利用者の面倒を見るなど、利用者同士の共助の場面が見られる。地域との協力体制は今後の課題としている。	昨今は想定外の災害も多く発生しており、様々な場を想定した訓練が望まれる。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	慣れた言葉遣いにならないよう、普段の関わりの中で気になる言葉を随時伝えるように心がけている	利用者は人生の先輩であり、友達感覚のような言葉かけはしないようにしており、声のトーンや言葉遣いに配慮している。また、排泄時には周りに分からないよう耳元で声掛けをするなど、プライバシーを損ねないように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物の選択、衣類の選択、入浴時間など自己決定出来る場面ができるように心掛けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員が決まった時間に同じことをするのではなく、その日に過ごしたいこと、その時間にやりたいことを聞きながら支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服を選んでもらったり、かける時には化粧したりできるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けと一人一人のできることを職員と一緒にいき、時には職員が教えてもらっている	普段は、食材業者から届いた食材と献立に沿って調理をしている。中には調理や食器洗いに参加する利用者もいる。	時には食材を止めて、利用者のリクエストでメニューを決めるなど、食事が楽しみになるような、さらなる工夫も期待される。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の量を記録に残している。また食べやすい形状や好みも把握し、出来る限り偏りが無いよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの促しから必要に応じた介助も行っている。また、訪問歯科からの助言もいただきながら支援に活かしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表も活用しながら一人一人の排泄のパターンを把握し、出来る限りトイレで排泄ができるよう支援している	トイレでの排泄を支援しており、一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけをしたり仕草から判断し誘導している。おむつからリハビリパンツに、リハビリパンツからパッドにと改善が見られた事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操でや家事で身体を動かす、飲水量の把握、医師との相談後の下剤の使用を行い、必要に応じて腹部マッサージもを行い、便秘にならないよう支援している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入りたい時間に入れるよう無理強いはいない声かけを行っている	ホームでは日曜日以外は毎日お風呂を沸かし、週3回の入浴支援をおこなっている。1階にはリフト、2階には昇降機が設置されており、利用者の身体状況に応じ使い分けて支援している。時間や順番は利用者の希望に沿うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は本人の生活の様子を見ながらベッドやソファで休む時間も動めている。就寝時間は職員が決めず、寝たい時に眠ることができるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師、看護師から薬の説明を受け内服後の症状の変化も伝えている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に好きだったことに捉われず、新しく好きになるかもしれないことも大切にする支援を心掛けている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあり積極的には行えていないが、近隣の散歩には行きたい時に行く事ができるよう支援している	ホーム周辺は散歩にはよい環境で、中には一人で散歩に行く利用者もいる。また、玄関前のプランターの草取りをする人もおり、外気に触れる機会を持つようにしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所の自動販売機での自由な買い物や近隣の店舗で買い物するときには好きな物が自分で買えるよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人の携帯電話の使用やホームの電話やタブレットによるLINE通話ができるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物を一緒に作成し飾っている。リビングの常時換気により室温が下がり過ぎないよう暖房などで調整を行っている	訪問時には掃除機をかける利用者の姿が見られた。共用空間にはオゾン発生器を設置して除菌、消臭するなど、感染対策にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TVや新聞を見たり、ソファーや空席で自由に過ごしたりできるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を持ってきてもらい生活しながら必要な物を増やすなどの工夫をしています	各居室にはベッド、エアコン、クローゼット、レースのカーテンが備えてある。利用者はテレビやこたつなど馴染みの家具を持ってきており、中には健康器具を持ってきている人もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの構造の中に必要に応じて手摺りや案内を増やし、わかりやすく安全に生活できるよう工夫しています		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと